

# 令和7年度 敦賀工業高等学校 学校評価書

項目	重点目標	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 学習支援	授業を大切にす る	①学科、学年、教科を越えた互見授業を通して授業改善に向けた取組を共有する。 ②生徒の途中入退出を全校で300回までに抑える。	途中入室については1学期208回、2学期373回となり目標達成することはできなかった。1学期は昨年度よりも減少したが、2学期から欠席・遅刻とともに増えた。重点目標「授業を大切にす」が2年目になり、学校全体での意識は変わってきたが、互見授業を通し、引き続き授業をベースに学習支援を進めていきたい。	「授業を大切にす」意識をより根付かせ、早い段階で学年、各科と連携し対応する。授業改善は生徒をひきつけることにつながるため、互見授業をさらに意識をもって行い、研鑽に努める環境づくりを行ってきたい。
2 生徒支援	自主性を育て、 自主的に行動でき る生徒を育成す る	①TPOに応じた、服装ができる。 ②他者の意見を聞き、理解できる生徒を育成する。	本年度1年生より制服を廃止しスーツとした。2・3年生と同様に敦工TPOスタイルを行っている。時間・場所・場面に応じた服装を整えることができているとアンケート結果から窺える。今後は容儀だけでなく、言葉遣い等もTPOにあわせた対応ができるよう社会人となるための資質向上に努めたい。	多様性に対応するためTPOスタイルを取り入れている。容儀だけでなく他者の意見を理解することで自ら考え、判断し、実行できるようあらゆる場面に対応するよう支援に努めたい。また、全体支援だけでなく個別支援も重点的に行っていきたい。
3 進路支援	進路について、 自分事として考 え行動できる力 を身につけさせ る	①進路活動に早期から自分事として取り組めるよう、地域社会との連携を工夫する。 ②生徒の進路意識が向上する（年度末アンケートにより確認）。	就職希望者に対しては、就職活動を自分事として進める為に職場体験等の機会を多く設けた。特に3年生については約50名の生徒が職場体験を希望し、自身の適性を見極める良い機会となった。進学希望者に対しては、1年次から上級学校のイベントや様々な校外活動への積極的な参加を促し継続的に取り組ませることで、多様化する受験方法に対応することができ、合格を勝ち取ることができた。	個別の進路支援が不可欠となる中で、生徒が興味ある企業や進学先に対して、積極的に情報を収集し校外体験等に取り組めるよう、支援体制を推し進めていく。あらゆる選択肢の中から業種等を検討し、自身にあった進路を見つけていく導きが必要であり、各学年に応じた支援体制の構築を図る。また、国公立大学等への進学希望者に対する学力補充の充実にも引き続き取り組んでいく。
4 保健管理	心身の健康に関 心を持たせる	夏休み終了までに、全員が健康診断後の再検査を終えているようにする。	夏季休業終了までに全員が再検査を終できなかったため、冬季休業までに個別指導を継続実施した。特に再検査率の低い歯科検診について、今年度は保護者に結果を配付するとともに生徒への個別指導を行った結果、昨年度より受診率が向上した。歯科検診の再検査率を上げるために、今後も早期再検査の重要性について伝えていく。	将来にわたって健康的な生活を送るために、生徒自らが自分自身の身体についてよく理解することや自己管理能力を身につけることが重要である。健康に関する情報、病気や異常の早期発見の大切さなど、健康管理に必要なポイントを全体に伝えることを継続実施する。また保護者に受診を勧めたり、再検査や早期治療の大切さを生徒に伝えたりするなど、個別支援を行うことで再検査率の向上につなげたい。
5 生徒募集	入学奨励の調 査・検討をする	①HPやInstagram等の閲覧回数を増加させる。 ②体験入学、オープンスクールの参加者からの入学者を増やす。	学校行事や部活動、学校生活等を配信し着実にフォロワー数が増加している。生徒や保護者のフォローも含め近隣中学生へのアプローチ役として更に閲覧数が増すように工夫する。オープンスクールは4科から2科の見学に変更し、少しでも興味がある科を見てももらえるよう工夫した、更に体験入学は夏休みから秋休みに移行した。参加者数こそ変化はないが受験者数は定員を約10%弱オーバーしている学科もある。	本校の魅力を更に伝えるツールとして進化させたい。わかりやすく見やすい内容を定着させ、興味を抱くよう追究する。更に、オープンスクールや体験入学に参加したいと思う内容につながることを念頭に学校のあらゆる情報を本校生や保護者に加え、本校の入学希望を増やせるよう近隣中学生やその保護者もターゲットに進めていく。
6 自主性の育成	基本的な生活習慣 を身につけさせ、 進路実現につな げる	遅刻の回数を100回以内にす る。  進路決定に向けて手厚くフォ ローアップする。	生活習慣の改善をはかるための目標として掲げた目標であったが、達成することはできなかった。常習者に対して有効な手段を考え実行していく。その際、家庭や学科、他部署との連携を行いつつ、生徒自身が遅刻について深く考える個々の支援を構築する。  「納得できる進路実現100%を目指す」を重点目標に生徒自身が自分の進路について考える場面を増やし、個々の希望において学年の担任間で共有し、生徒に直結した支援を実施した。アンケート結果からは生徒自身から満足いく回答を得ているが下位評価も若干名存在する。更に早期からの目標設定を試みたい。	社会人になるための最終の訓練期間としての役割を考えた支援を進め、生徒自身が考えて、判断し行動する支援策を展開する。健康面、学習面、部活動面など、あらゆる方向から個々に応じた視点で導いていく。  自らの将来を見据え、職業を選択し、その達成に向けてどのような学習が必要で、どんな検定取得が大切かをできるだけ早い段階で定着させるよう導くことが必要である。目標が明確になった場合は、その企業や学校についての情報を収集し、実際にその環境を自身の目で見られる取組ができるように導いていく。
7 工業教育	探究的な姿勢の 獲得を目指す	各生徒が設定テーマに関して、 一人で探究活動を進められるよ うになる。	各科の特徴に合わせた取組を実践し、生徒自身が問題・課題解決する力の育成を図った。学んだ知識や技能を生かす取組を、社会に役立つ取組に落とし込む考えを計画的にする必要があることや時代に合った取組を支援していけるよう指導者のスキルアップが課題となっている。	生徒の多様性に沿った探究活動を、テーマありきとなりすぎないように支援する必要がある。探究的な取組を進路支援にも活用できるよう、プレゼンテーション能力の向上や職場体験などとともにコミュニケーション能力を培う支援を進めていく。